

# 新潟県山田錦協議会主催夏期視察研修

## JAなんと(富山県)で移植・直播の山田錦栽培を研修

(株)はせがわ酒店長谷川浩一社長が東京から駆けつけ特別講演

# 生産者通信

NPO法人  
米ニケーションセンター  
定価 100円(送料込)



直播の山田錦の前に説明する中島部長

7月13〜14日に、新潟県山田錦協議会のメンバー31名が、富山県のJAなんと(南砺市)で研修を行いました。

\*\*\*\*\*

◆上越地区の圃場の初見学  
富山へ向かう途中で、上越地区の4生産者の山田錦圃場を視察。

研修では見附・長岡地域の圃場視察がメインで上越地区では初。4生産者全員が5畝以上の大規模に山田錦を栽

培。昨年の経験と淡路先生の指導で、田植え時期、栽培管理が収斂。

◆JAなんと・直播圃場  
昨年引き続き、JAなんと様には視察を受け入れて頂きました。中島行昌営農部長より道を挟んだ移植と直播の山田錦の圃場を視察。JA管内で1150畝のうち450畝が酒米。うち100畝が山田錦。直播は労働力不足から拡大。(前年60畝)

生産組織を中心に直播の普及が進む。鉄コーティングが中心だが、技術的には安定しない。栽培データの収集をして見る。  
直播は生育が良く見

えても、収穫時には無効分げつが多く収量が上がらない。直播の山田錦専用の一発肥料は現存でなく、オリジナル混合比を試行している。

◆直播の見えないコスト  
JAなんと管内では約300畝が直播栽培に取り組んでいる。

直播で、カルパーと鉄コーティングを比較すると、カルパーは比較的に生育がそろうが、鉄コーティングは発芽がバラつくので米の熟度の違いから品質に問題を残す。通常、JAなんと管内では、4月末からGWまでには直播をして、3週間ほどで芽が出る。今年には4月の異常な高温の

ためにわずか5日間で発芽をした。また、雑草対策が一番の課題であり、3〜4回の除草剤散布はコスト負担といえる。

### ◆手探りの山田錦栽培

うるち米の需要・価格低下から比較的安定している酒米に移行したいのはこの産地でも同じ悩み。

しかし、生産者の高齢化による深刻な労働力不足、圃場の老朽化は、直播栽培への取組みなど、根本的にやり方を変えなければならぬ状況。

今回の研修で28年度には新潟県でも山田錦の直播に挑戦を宣言す



講演する、長谷川浩一社長(JAなんと会議室)

る生産者も出て、協議会としても支援しながら栽培技術の確立を目指したい。

### ◆長谷川社長による講演

地酒ブームの仕掛人である、(株)はせがわ酒店の長谷川社長が研修会に参加。

規制緩和によりDSとの厳しい販売競争、売り上げの低下、倒産直前まで傾いた家業を日本酒に特化することで経営を立て直した経験の講演。どん底の時には組合費3千円が払えず、質屋に駆け込み金策するほど困窮。

現在では、10ヶ国に輸出し、麻布・六本木ヒルズ・東京駅・スカイツリーなど出店するまでに成長。

東京駅地下の売店とカウンターバーは、わずか40坪で年商7億円。しかし、万引きで年200万円以上の被害がある。

次回は、協議会若手を中心に(株)はせがわ酒店を視察します。